



横浜国立大学

横浜国立大学における 日中大学交流の実践と課題

横浜国立大学

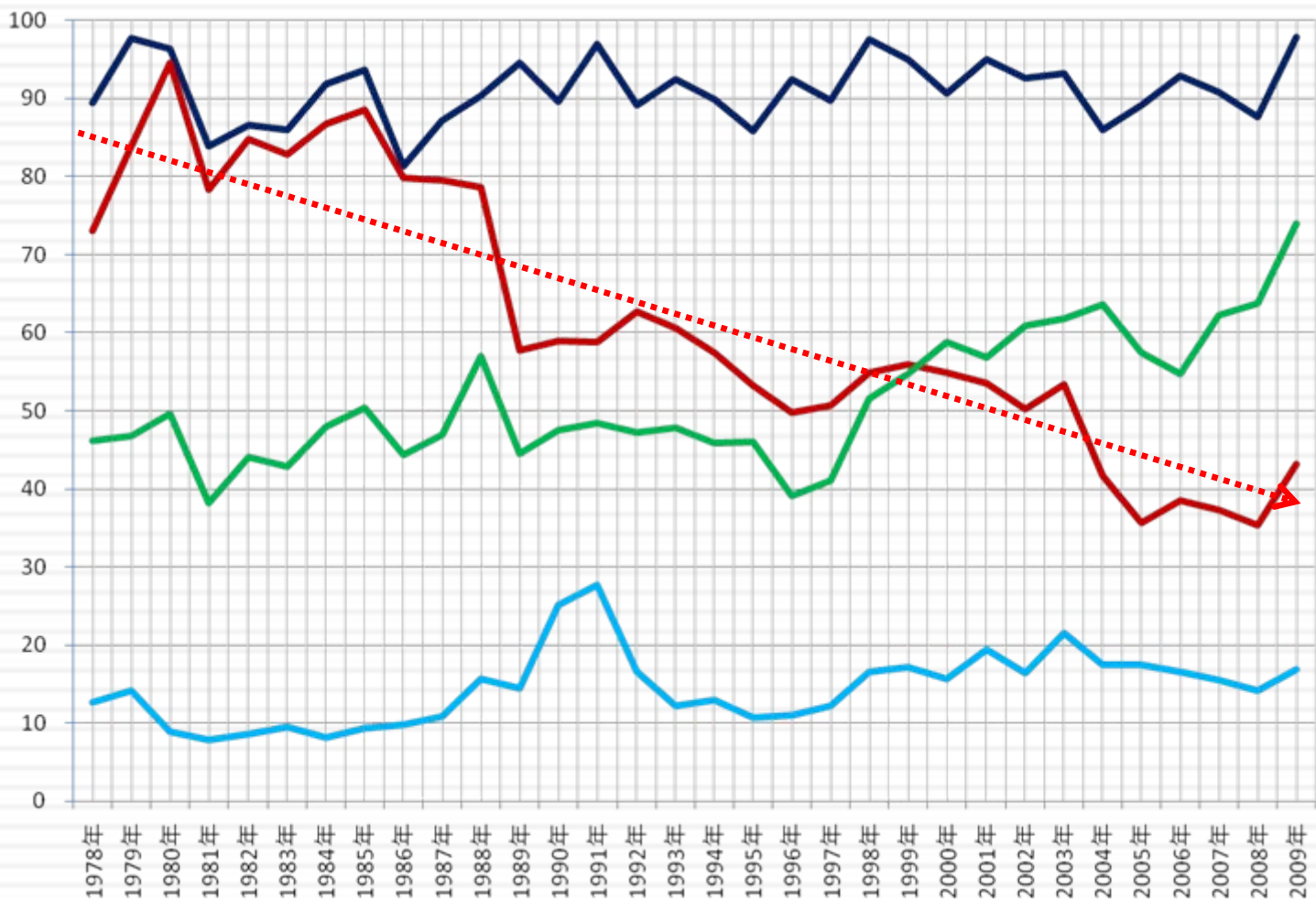
教育人間科学部 教授

MURATA Tadayoshi

村田 忠禧



外交世論調査にみる日本人の対外親近感 (米国、中国、韓国、ロシア)



←米国にたいしては安定的に高い

←韓国にたいしては90年代末から向上

←中国はそのまま下降していくのか

改善させる方策はないのか

中国の大学との大学間交流協定

上海交通大学	1982.10.29	学生交流、研究者交流、研究協力
北京師範大学	1998.12.28	学生交流、研究者交流、職員交流、研究協力、情報交換
華東師範大学	2000. 3.27	学生交流、研究者交流、職員交流、研究協力、情報交換
山西大学	2005. 1.28	学生交流、研究者交流、情報交換
天津大学	2005. 8.16	学生交流、研究者交流、職員交流、研究協力、情報交換
清華大学	2008.3.28	学生交流、研究者交流、研究協力、情報交換
大連理工大学	2009.2.10	学生交流、研究者交流

留学生数の多い大学 30位まで

私立大学が16校 19,026人
 国立大学が14校 17,656人

横浜国立大学は22位で 804人

横浜国立大学は学部・大学院の学生総数1万弱の中規模大学だが、留学生の比率は高い

学校名		2009年5月	2008年5月
早稲田大学	私立	3,114	2,608
立命館アジア太平洋大学	私立	2,786	2,644
東京大学	国立	2,473	2,388
筑波大学	国立	1,522	1,337
大阪大学	国立	1,509	1,439
九州大学	国立	1,509	1,292
京都大学	国立	1,407	1,335
国士舘大学	私立	1,345	1,356
東北大学	国立	1,344	1,214
名古屋大学	国立	1,344	1,214
大阪産業大学	私立	1,284	1,297
立命館大学	私立	1,230	1,119
拓殖大学	私立	1,195	1,046
東京工業大学	国立	1,149	1,092
日本大学	私立	1,091	1,048
慶應義塾大学	私立	1,053	933
神戸大学	国立	1,043	1,011
北海道大学	国立	990	864
広島大学	国立	978	842
千葉大学	国立	957	878
福岡経済大学	私立	833	522
横浜国立大学	国立	804	772
明治大学	私立	786	674
帝京大学	私立	758	953
北陸大学	私立	758	626
明海大学	私立	732	652
敬愛大学	私立	720	712
上智大学	私立	675	625
東京国際大学	私立	666	665
岡山大学	国立	627	605

横浜国立大学の留学生の特徴

2009年の留学生数とその比率

所属	全国	横浜国立大学		全国	横浜国立大学	
		大学全体	うち中国		大学全体	うち中国
学部生	67,108	377	165	50.6%	45.1%	47.1%
大学院	35,405	452	185	26.7%	54.1%	52.9%
専修課程	27,914	0	0	21.0%	0.0%	0.0%
準備教育課程	2,293	7	0	1.7%	0.8%	0.0%
留学生総数	132,720	836	350	100%	100%	100%
私費留学生	119,317	634	322	89.9%	75.8%	92.0%
国費留学生	10,168	202	28	7.7%	24.2%	8.0%
外国政府派遣留学生	3,225			2.4%		

横浜国立大学の特徴

- ①大学院の比率が高い ②中国人留学生のうち、私費留学生の比率が高い

私費に依存する日本の留学生受入れ

- 日本の高等教育への公的財政負担は低い(32.2%)
(OECD加盟28ヶ国中、27位)
- 留学生受入れについても私費留学生が89.9%と私費依存が鮮明
- 横浜国立大学の中国人留学生のうち92.0%が私費
- 私費留学生対象の各種の奨学金はあるが量的に不足
- 経済的に恵まれた家庭の子女のみ留学可能
- 勉学よりもアルバイト優先の弊害が発生する

交換留学制度の積極的活用を

- 必ずしも学位取得を目的とせず、異文化体験、語学習得などで一年以内の期間、相手国の大学で学ぶ制度
- 全国で 11,546名(2009年5月段階)
- 中国から 3,577名(31.0%)
- 韓国から 1,952名(19.0%)
- 米国から 1,683名(14.6%)
- 横浜国立大学の短期派遣留学 1997年～2009年
- 受入れ数 計 599名 派遣数 計 307名
- そのうち中国からの受入れ 計 41名 派遣 16名
- 中国を除くアジアからの受入れ 計 192名 派遣 計 16名
(そのうち韓国からは184名、韓国へは14名)
- 語学習得が主たる目的のため、英語圏への留学が多い

中国との交換留学生の伸びが鈍い

- 中国の国際的地位の向上、日中関係の緊密化→中国の今後の行方は世界の注目の的である
- 中国語学習者は非常に増えているが、日本からの中国への留学希望者はあまり増えていない
- 中国からの日本への留学希望者は多いが、奨学金受給枠が少ないため、来日できないケースが多い
- 交換留学生を増やす鍵は二つ
- ①日本からの派遣を増やすこと
- ②日本学生支援機構以外の奨学金枠を増やすこと

中国への留学を増やすには

- 自分の眼で実際の中国を見ることを奨励し、中国に関心を持たせることが大切
- 夏期休暇、春期休暇を利用した中国研修旅行を実施(2003年に開始 学生の自費負担)
- 副専攻科目のなかの実習科目として中国研修旅行を教育体系のなかに位置づけた(2009年度から)
- 「オリンピック・博覧会の開催と都市の現代化、国際化についての日中大学交流セミナー」の実施(2007年2月)
- 上海万博開催を積極的に活用することを検討中

企業の積極的な奨学金提供を

- 日系進出企業数：23,035社（2007年末現在）
- 中国在留邦人数：125,928人（香港、マカオ含む）
いずれもJETROの中国に関する基礎データより
- 前途ある巨大市場の中国で、日本企業は歓迎される存在である必要がある
- 優秀な人材の確保、企業イメージの向上、経営管理のノウハウの伝授も必要
- 奨学金を積極的に提供することは企業自身にとってもプラス効果が大きい

中国からの留学生を増やすには

- 中国の大学での日本語学習者数は2006年段階ですでに40万人を越え、世界一
- 中国は中国語、中国文化の普及をめざす「孔子学院」を世界規模で展開中
- 日本も日本語および文化、経済、社会、科学技術をも含めた総合的日本人理解促進のための教育を世界規模で展開すべき
- 中国の大学と連携して、共同で人材育成事業を展開し、留学希望学生の質を確保すると同時に、奨学金枠を拡大すべき
- 985プロジェクト(高水平学生)への積極的対応

大学教育における日中連携を！

- 日中双方は相手側言語を学ぶ人口が多い現実を重視すべき
- 英語+中国語、英語+日本語の教育を強化する必要
- 画一的な外国語教育を改め、短期集中型、しかも現地習得に重点を置いた教育体制を共同で開発すべき
- 時差は1時間 インターネット回線によるハイビジョン遠隔授業システムでの共同授業の展開が可能
- 講義映像に字幕を入れ、DVDにして配信するなど、科学技術の成果を積極的に活用した教材を開発すべき

研究室を中核とした調査・交流旅行

- 日本と中国は一衣帯水の隣邦
- 往来は非常に容易 羽田空港の国際化でさらに便利に
- 環境・省エネ・少子高齢化問題など、日本と中国には共通する研究課題が山積している
- 留学生が多いことは利点、彼らは研究や教育の「架け橋」になりうる
- 留学生を案内人とした研究室単位の現地視察旅行を展開すれば、日中大学交流はよりいっそう拡大する

互恵・補完的教育プログラムを

- 誰もが留学できるとは限らないし、留学すればすべてが解決するわけでもない
- それぞれの国の教育体系の中で、相互理解を促進し、信頼、協力、連携に貢献する人材を育成すべき
- 国家や大学の枠を越えた、グローバル時代にふさわしい21世紀型人材育成プロジェクトを共同で開発する必要がある
- 日本と中国が互恵・補完型の共同教育プログラムを作ることが大切である



謝謝

